□作品紹介□

一、岡本清二
臨書　行書　米芾『蜀素帖』　半切
「青松勁挺姿凌霄耻屈盤種々出枝葉」
行書に挑戦しました。色々アドバイスありがとうございます。
字のバランスをとるのが難しく感じました。ご批評お願いします。



二、岡田卓也
臨書　楷書　欧陽詢『皇甫誕碑』　半切
「昔梁孝開國首辟鄒陽燕昭建邦肇徵郭隗故得馳令問於碣館播芳猷於平臺以」
今回初めて半切の三行書に挑戦しました。自分なりに元本を研究・解釈し、繊細かつ引き締まり、鋭さをもつ書風を意識してみました。まだまだ書き込みも甘く未熟な作品ですがご批評お願いします。



三、尾﨑由布子
臨書　行書　顔真卿『祭姪文稿』　全紙
「侯眞卿以清酌庶羞祭姪贈賛善大夫季明之」
今回は初めての行書に挑戦しました。字数の多さや連綿など、今まで私が書いてきた隷書との違いに戸惑うこともありましたが、なんとか形にすることができました。なかなか方向性を定められず、かなり長期のスパンで書いたためにマンネリ化してしまったことが最大の反省点です。まだまだ未熟な作品ではありますが、どうぞご指導よろしくお願いします。



四、糸井健太
臨書　行書　最澄『久隔帖』　半切
「方円図幷注義等名今奉和詩未知其」
最澄が空海の下にいる自分の弟子に宛てた手紙（尺牘）です。空海の書に比べ、随分と主張は抑え目で洗練されていており、そこに惹かれて取り組みました。余りに偉大な書き手を前に平伏するばかりですが、臨書自体はとても楽しめました。


方圓幷注義等名
今奉和詩未知其
健太

五、外崎陽介
臨書　楷書　『牛橛造像記』　半切対聯
「妙樂自在之處若有苦累即解脱三塗悪道永絶因趣一切衆生咸蒙斯福」
今回が初めての出品です。力強さと鋭さを意識して書きました。


妙樂自在之處若有
苦累即解脱三塗
悪道永絶因趣一切
衆生咸蒙斯福
陽介

六、宮本佳奈
創作　草書　『偶成』　半切
「少年易老学難成。一寸光陰不可軽。未覚池塘春草夢。階前梧葉已秋声」
大学生なので、この詩を選んでみました。やりすぎで、うるさい！　と言われたいです。楽しかったです。


少年易老學難成一寸光陰不可輕
未覺池塘春草夢階前梧葉已秋聲
己酉秋聲

七、窪田頌
臨書　篆書　呉大澂『徐鉉・説文表』　全紙
「王教化所以行於百代及物之功与造化均不可忽也雖摂五帝之後易殊體大国之世文字異形然猶在篆籀迹不失形類本」
清朝有数の考証学者・日清戦争司令官たる呉大澂。各所に滲む彼の文字学の認識は、並々ならぬように思えました。


王教化所以行於百代及
物之功與造化均不可忽
也雖攝五帝之後易殊體
大國之世文字異形然猶
在篆籀迹不失形類本
石成平成庚寅亜夏下澣　呉大澂記文表頌

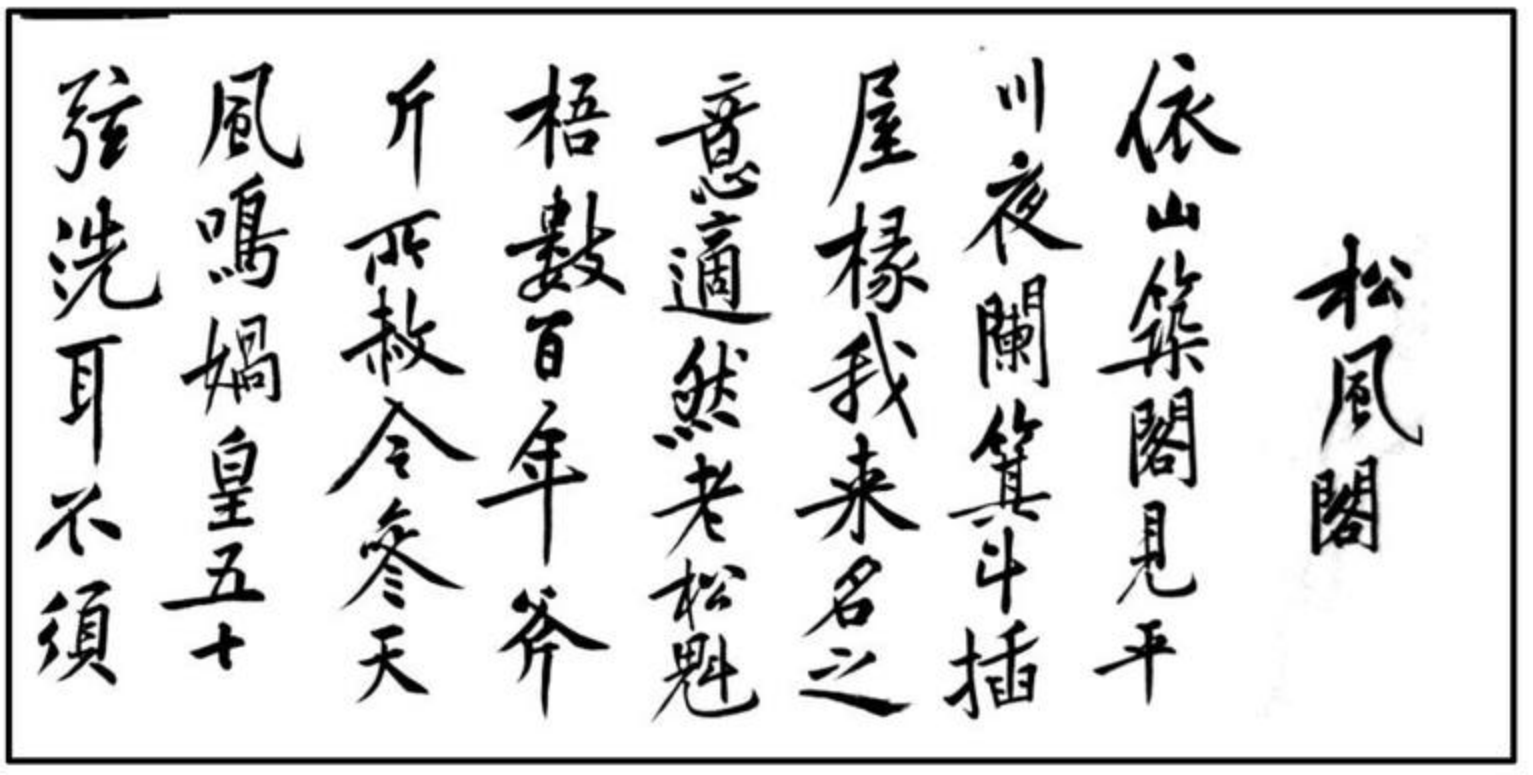
八、永溝聡士

臨書　楷書　黄庭堅『松風閣』

「松風閣依山築閣見平川夜闌箕斗挿屋椽我来名之意適然老松魁梧數百年斧斤所赦今參天……」

がんばりました。一枚書くのに四時間以上掛かるのでかなりつらかったです。出来は甘いですがご容赦下さい。

三五cm×二七〇cm



九、江﨑洋平

臨書　行書　米芾『苕渓詩巻』　全紙

「秋久賡白雪詠更度采菱謳縷玉鱸堆案團金橘滿洲水宮無限景載与謝」

宋の四大家に数えられる米芾。彼は、古典を学びながら、彼独特の書風を創造していったそうです。それに習い僕も、この作品を臨書することを通して、研鑽を積んでいきたいと思っています。



一〇、岡本清二

臨書　隷書　『居延漢簡』　半切

「居延鳴沙里年世歲姓母追逐物駿遣厳住朔」

興味があって挑戦してみました。扁平さと綺麗な波磔を心がけました。ご批評お願いします。



一一、和田卓也

臨書　行書　倪元璐『行草五言律詩軸』　二尺×六尺

「滿市花風起平隄漕水流不堪春解手更爲晩停舟上埭天連雁荒祠水蔽牛杖藜聊復爾轉盼夕陽游」

本作品は倪元璐の若い頃の作品で、独特の鋭い線質が特徴です。行の軸を通さない、多方向に引っ張られる、上下の字どうしの絡み…限られた紙面というステージでいかに文字を踊らし、演出するか。課題はまだ多そうです。



一二、糸井健太

臨書　楷書　『高貞碑』　全紙

「我徳如風物應如響弱冠以外戚令望除秘書郎」

「高貞碑」は、典型的な北魏楷書の持つ鋭さ・硬さを残しつつも、後代の楷書により近づいた書姿をしています。と自分のチンケな頭で解かった気になっている間は気楽でしたが、肝心の表現には大変苦しみました。目指した力の絶妙な均衡や緊迫感、典雅な雰囲気の表現には程遠い出来でしたが、学ぶ点は多かったです。



一三、木谷亮太

臨書　行書　顔真卿『争坐位稿』　全紙

「尚書上柱國魯郡開國公顔真卿謹奉寓書于右僕射定襄」

実直な武人顔真卿の憤りがあらわになった争坐位稿。何でも式典の席順に不満爆発だそうです。彼の怒りを表現できたでしょうか？ ちなみに僕が今回題材としたのは、「己の腑甲斐ない春休み生活への憤り」です。豆腐の角に頭をぶつけたくなるその心を御覧下さい。



一四、西村有希子　　臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切

「松風水月未足比其清華仙露明珠」

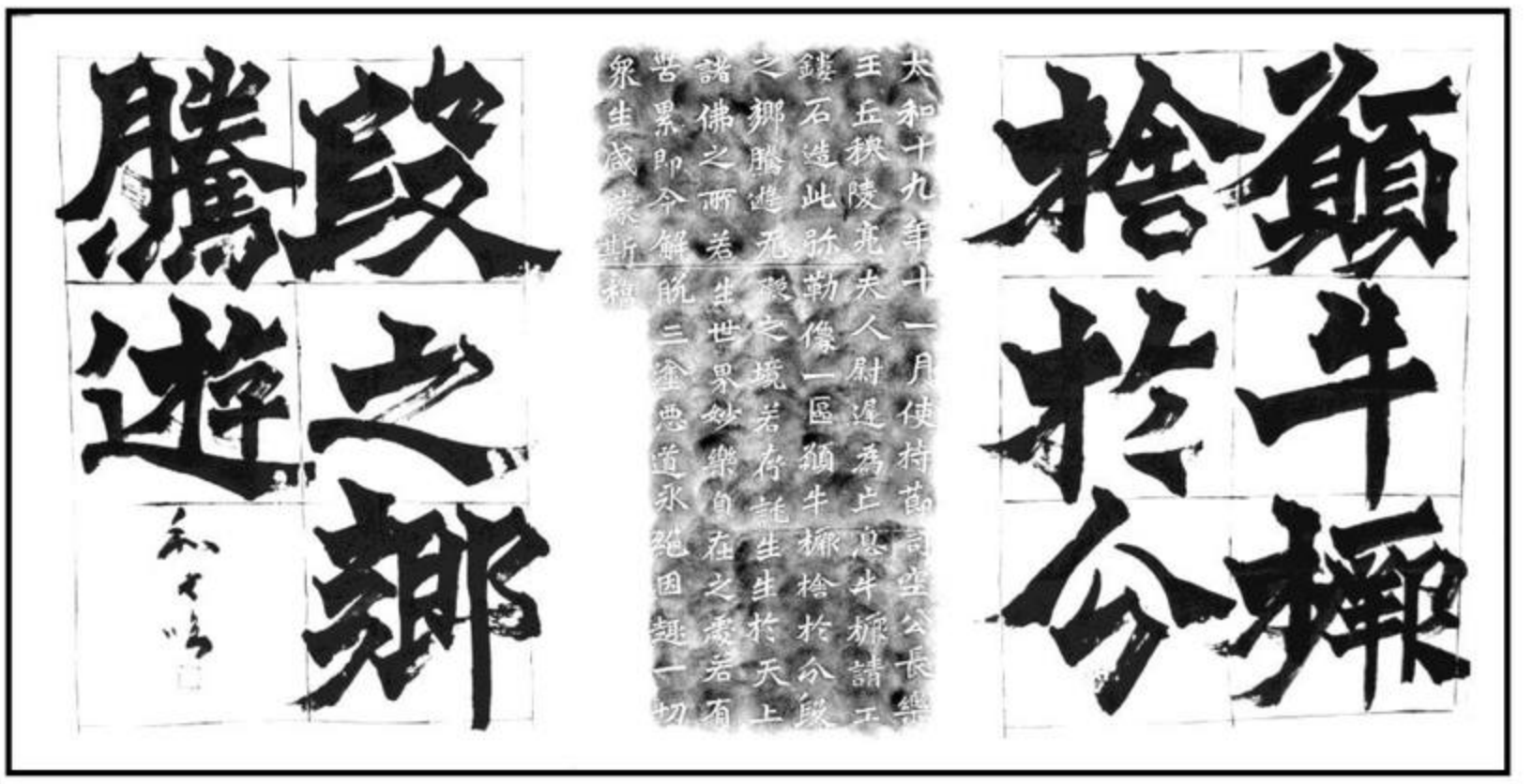
初めての行書作品で、流れや構成などに悩まされました。至らないところが多々ありますが、沢山の方からご指導いただきいい経験になりました。



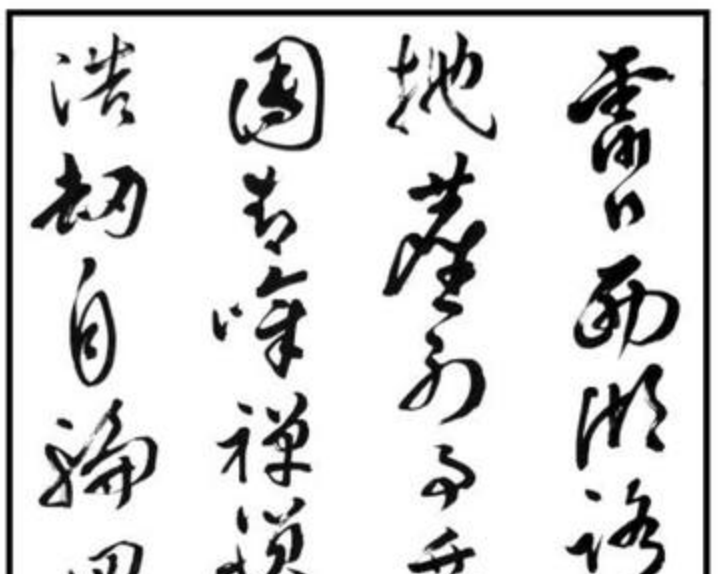
一五、中川和也　　臨書　創作　楷書　『牛橛の世界』　全紙横

「願牛橛捨於分段之郷騰遊」

北魏の竜門石碑群に刻まれた楷書。そこに漂う、古風の豪快さと圧倒的存在感。それはやはり墓誌として刻まれたこの碑文が、愛しき亡息に捧げた言霊であり、そこに精神性が伴っているからでしょう。この紙面に、碑文に刻まれた古の文字精霊が蘇るように、「刻み」そして「書き」ました。未熟な作でありますが、叱咤の程よろしくお願いします。



一六、水谷慈
　臨書　草書　文彭『旧日西湖路』　全紙
「旧日西湖路梅花幾度開暫〇塵外事乗興雨中来幽逕団青嶂禅鎖緑苔一宵清浄業浩劫自輪廻」
　少しマイナーですが、文徴明の息子、文彭の作品です。もともとの条幅作品の配置通りにまとめました。弱い線にならないよう意識してみました。ご批評の程よろしくお願いします。



一七、近藤和歌子
　臨書　楷書　顔真卿『多宝塔碑』　半切
「燈明示於無盡非至徳精感其孰能」
　右も左もわからぬまま、力強い字形に魅せられて挑戦しました。多くの方々にご指導いただき、なんとか仕上げることができました。本当に感謝しています。
　力強く書くことをバランスよく書くことを両立できず苦労しましたが、書いていてとても楽しかったです。これからも頑張るので、よろしくお願いします。



十八、小川薫
　臨書　行書　褚遂良『枯樹賦』　半切
「開花建始之殿落實睢陽之園聲含嶰谷曲抱雲門将雛集鳳比翼巣鴛臨風亭」
　大学に入って始めた書道も3年目に入りました。今まで取り組んでいた王義之の行書とは異なる書風の古典の臨書に挑戦しました。この古典は他の行書作品とは異なり、字と字の連綿はほぼないのですが、それぞれの文字が表情豊かな線で流麗に表現されています。私は今回の作品ではこの“特有の一字一字の美しさ”をできる限り書くことに重点を置きました。御批評よろしくお願いします。



十九、横山成基

創作　調和体　ワライナキ『story』　半切横

「そこに生まれるいくつもの story／今日もまた知らない場所で／誰かと誰かが出会う／細い細い糸と糸／つなぎ合わせていくように」

カナート洛北全土が一体になる、あの瞬間。家族、友人、恋人。この出会いを大切にしたい。

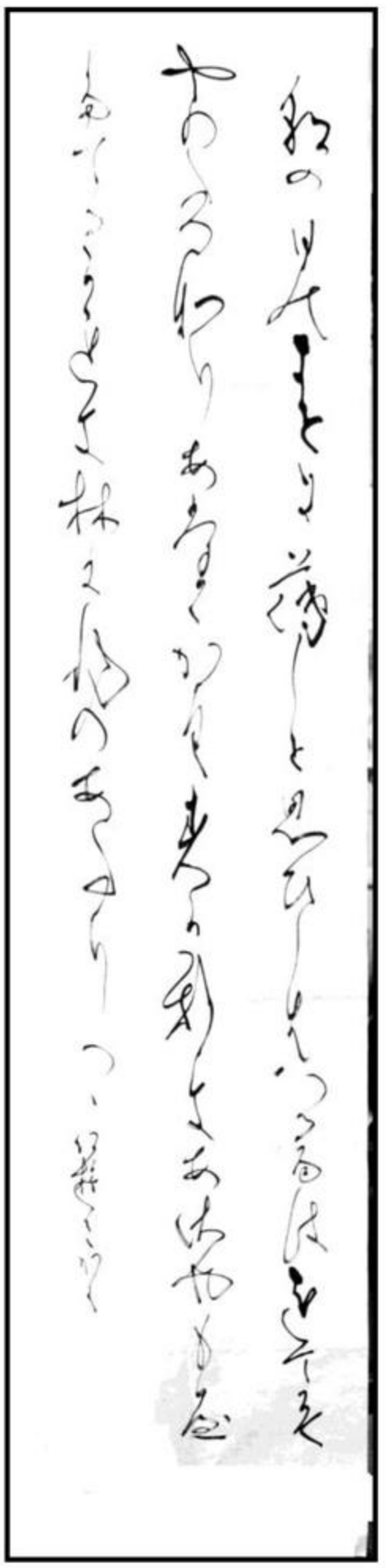


二〇、池田亜由美

創作　仮名　『もや』　二尺×八尺

「朝の日の窓に薄しと思ひしは春雨はれてもやの立つなり暖かくすがしき朝ややもやだてる枯木林に日のあたりつつ」

初夏なのに靄でまとめてみました。二八はとても久しぶりだったので腰がいたくて大変だったのと、練習場所がなくて苦労しましたが、頑張って書きました。行間を揃えてすっきりさせることを目標に書いたので余白を見ていただけると嬉しいです。





二一、宮本佳奈

臨書　草書　王鐸『安和帖』　二尺×八尺

「奉別告承安和慶慰極冷不審尊體復何如獻之比日如復小勝因夜行忽復下如欲作?今服藥盡雄温燥理糞當可耳然異極都不得近」

王鐸の臨書です。法帖は同じような太さのｘに見えますが、よく見たらひとつひとつに変化があります。その変化を見逃さないように書きました。

線質が弱いなと反省しています。

二二、中川真理子

創作　行書　『和王中丞聞琴』　二尺×八尺

「涼風吹キ二月露ヲ一　圓景動ス清陰ヲ一　蕙風入リ二懐抱ニ一　聞クニ君ガ此ノ夜琴ヲ一　蕭瑟滿チテレ林ニ聽ヘ　輕鳴響キテレ澗ニ音ス　無為タルノ澹容ノ與　蹉跎タルノ江海ノ心」

初めての漢字創作で二八作品を書くという無謀な挑戦は、案の定というより、それ以上に大変でした・・・。始めは紙に向かうことすら苦痛なほどでしたが、何枚も書くうちに筆が動くようになり、楽しんで書くことができました。やっぱり書道はいいですね。忙しくなっても暇を見つけては勤しみたいです。





二三、江﨑洋平

臨書　行書　董其昌『酒徳頌巻』　二尺×八尺

「執觚動則挈榼提壺惟酒是務焉知其餘有貴介公子」

行書の魅力は流れやそこから生まれる躍動感ではないでしょうか。これも、まさに「動」を表現しようとした作品です。

二四、春木光平

創作　草書　『独憐』　二尺×八尺

「遠聴江上笛、臨觴送君。還愁独宿夜、更向郡齋聞。独憐幽草澗辺生、上有黄鸝深樹鳴。春潮帯雨晩来急。野渡無人舟自横。」

若輩ゆえ今後も奮励すべきでありながら、書道部生活の節目として取り組んだこの作品。書道部としての活動に対する自分のスタンスを深く考えた時期に向き合ったものだからか、不思議なことに、書き上げた“作品”というより価値ある時間を共に過ごした“相棒”って感じです(笑)。いつか“こいつ”に対して感慨佩の念を抱く日が来るような気がします(笑)。



二五、高垣茜

臨書　行書　張瑞図『春来常早起幅』二尺×八尺

「春来常早起幽事頗相関貼石防隤岸開門出遠山一丘蔵曲折緩歩有躋攀僮僕来城市瓶中得酒還」

一目惚れでした。風変わりで、強くて、優しくて。そんな瑞図に魅かれて一年半。今回は二八で表現したくてかなりの背伸びをしてみました。これからも果てしない挑戦を続けていきたいと思います。



二六、北山聡佳

創作　調和体　『三月のおわり』

「伝えきれなかったありがとうの数だけ涙が落ちた」

今年の三月に大学院修士課程を修了しました。悲しみと期待を胸に、皆の旅立ちを祝った宴が、昨日のことのように思い出されます。本作品では、まさに断腸の思いがした三月最後の別れを表現しました。

また、本作品を制作するにあたり、書作品用の額を使用するのではなく、すべて手作りでインテリアとしての書を目指しました。

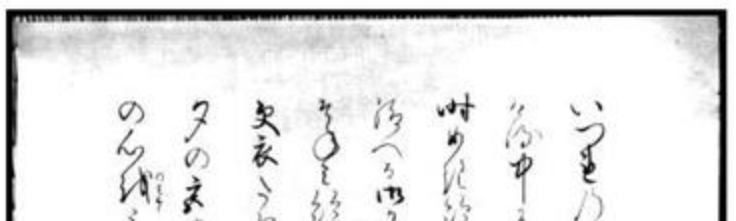
全紙三分の一



二七、江崎洋平
臨書　草書　懐素『草書千字文』　半切
「河鱗潜羽翔龍師火帝鳥官人皇始制文字」
これまでは、原本に忠実にを専らとしてきましたが、今回は行の流れにリズム感や変化をつけてみました。



二八、舛井千草
臨書　仮名　『永青文庫蔵源氏物語』　半紙
「いつれの御時にか女御更衣あまたさふらひ給ける中にいとやむことなききはにはあらねと…」
多分日本人の多くが知ってる源氏物語の冒頭部分。せっかくならと挑戦してみたのですが…すみません、絶対的に練習不足は否めません(汗)。その中で少しでも雅さが出せれたらと頑張りましたが…どうでしょうか？



二九、宮本佳奈
創作　調和体　『空も飛べる』　半切
「君と出会った奇跡から胸にあふれてる／きっと今は自由に空も飛べるはず／夢を濡らした涙が海原を流れたらずっとそばで笑っていてほしい」
スピッツの「空も飛べるはず」から書きました。上の字と、下の小字を調和させるのに苦労しました。
初めての調和体なので、探り探りでした。まだまだ勉強が必要です。



三〇、中川和也

創作　前衛書(墨象)　『「亂」による』　全紙横

ヘシオドスの『神統記』には、「原初のカオスからガイアが生まれ……云々」とあります。カオスとは「亂れ」であり、そこからガイア（大地）が生まれたというのです。森羅万象は「無」から生じるのではなく、「亂れ」を経て生じる……紙面の白を「無」とし、そこに「亂」を置けば、そこから森羅万象が生まれるのではないかと思うのです。そして、それらが生まれる場所は、「書」を観る者の、心の中に違いないそう思うのです。



✦　賛助作品　✦

＊講師　寺本蒼玄先生

創作　『趣』

時間のゆったりした流れを明末の伝山の雰囲気を生かして制作しました。爽やかなゆとりのある作品に仕上がっていると思います。

✦　合作作品　✦

＊『紫陽花と書』

今回の合作では、簾に紫陽花をデザインしました。また、花一つ一つに書かれた文字は部員それぞれが考えて書いたものです。

「季節を感じ、そして書道を身近なものとして楽しんでいただきたい。」

そういう思いで作りました。楽しんで頂けると幸いです。



This book was
made by the LeME